

視察（研修）報告書

平成 29 年 5 月 17 日

府中市議会議長 様

会派名又は 公明党

議 員 名 大本 千香子

加島 広宣

日 時	平成 29 年 5 月 16 日 10:00~12:00
視 察（ 研 修 ） 先	府中市役所 第一会議室
視 察（ 研 修 ） 項 目	「データヘルス計画」について
参 加 者	大本 千香子・加島 広宣・創生会
視 察（ 研 修 ） 内 容	「データヘルス計画」についての研修会
所 感	- 府中市は昨年 12 月に一次のデータヘルス計画をまとめた。国保データから見える府中市の医療・健康の状態を分析し、今後どこに力点をおき健康指導、予防医療に取り組むか手掛かりにするものである。 - 今回の研修では先駆けて呉市で糖尿病の重症化をデータヘルス計画により改善された森山教授から更に詳しい内容をうかがうものであった。 - 一つには、データの取り方に留意すべきと指摘があった。分析作業を行う民間会社の分析で主症状のみで分析するか、病名ごとの分析をするかで出てくる数値が大きく変わる可能性があるとのこと。府中市でも今後専門的な分析に入るときに、精査が必要と感じた。 - 高齢者の入院原因第 1 位に大腿骨骨折が挙げられているが、腰に装着するサポーター使用で、骨折の多くを予防できるとあり、サポーター使用を検討すべきと感じた。 - 精神疾患羅患者の糖尿病重症化が顕著である。病気の性質上、多剤治療になりやすく、また生活習慣病の意欲的な取り組みが難しいことも考えられる。精神疾患は府中市の病名別患者数の 1 位でもあり、早期発見、適正治療、病院から地域への流れを早く確立すべきである。 - データの分析による薬剤使用の医療機関傾向などもつかめる。適正な医療の管理に活用すべきと感じた。 - データを活用して予防医療に取り組むには、人材が必要である。現在の健康医療課の体制では難しいので、外注か人員の配置が必要である。対処療法にお金をかけるより、予防への人材確保に予算を使うべきである。